

千葉県

研究協力校（課程又は障害種）

- ・千葉県立君津特別支援学校（知的）
- ・千葉県立夷隅特別支援学校（知的）

研究の成果

観点Ⅰ：

各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

Ⅰ-Ⅰ. 研究の目的

千葉県では、研究協力校 2 校で異なる研究テーマや目的を設定し、実践研究に取り組んだ。まず、千葉県立君津特別支援学校（以下、「君津」）では、知的障害のある児童生徒への学習評価について、現行の特別支援学校学習指導要領に基づき、教育課程を編成して、一人一人に個別の指導計画を作成し、目標、手立てに照らし合わせた評価を実施している。各教科等を合わせた指導の評価については、児童生徒の意欲や態度により判断する部分が多く、各教科等の内容に基づいているにもかかわらず、「何を学習し、何ができるようになったのか」という説明が十分とはいえない状況にあり、各教科等の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが課題となっている。

これらのことを踏まえ、「君津」では各教科等を合わせた指導について、各教科等の内容や評価の観点の明確化を図り、効果的な指導方法について研究することとし、研究テーマを「知的障害のある児童生徒の質の高い学びを実現するために必要な学習指導と評価の在り方」と設定した。

千葉県立夷隅特別支援学校（以下、「夷隅」）では、これまでも特別支援学校においては、キャリア教育の全体計画を作成して取り組んでいるところであるが、本研究を通して、各学部内で指導する各教科間の関連性（各教科や領域等でキャリア教育と係わる主な事項を明らかにするなど）や校内における各学部間のつながり、家庭や地域との連携の在り方等について、更に検討することが課題として明らかになった。

そこで、本研究では、キャリア教育に係わる各教科間の関連性や、校内における各学部間のつながり、家庭・地域や産業現場との連携の在り方などについて検討し、小学部段階から連続したキャリア教育を推進するための教育課程の編成や指導方法等を明らかにすることを目的とした。

1-2. 校内研修による共通理解（「君津」）

「君津」は大規模校ということもあり、平成 29 年度は研究を進めるにあたって教師間の共通理解を図ることに着手した。

校内研修では、筑波大学附属大塚特別支援学校 中村晋氏より「～各教科・領域を合わせた指導について～戦後の教育方法史から今日的課題まで」というテーマで「各教科等を合わせた指導の歴史と特徴」「各教科等を合わせた指導の課題」について、助言を受けた。また、文部科学省初等中等教育局視学委員特別支援教育調査官（現神戸親和女子大学准教授）武富博文氏から、新学習指導要領の改訂のポイントについて助言を受けた。これらの研修により、次年度行う研究への共通理解ができ、各教科等を合わせた指導における関連する各教科等の内容を意識した授業づくりや児童生徒のつきたい力を観点とした学習評価に加え、単元の評価（教師の評価）の必要性等、次年度の研究で目指すことが明確になった。

1-3. 校務分掌の活用をはじめとした学校全体で共通理解を進める取り組み（「夷隅」）

「夷隅」では、小学部から高等部までの全教育課程を通して取り組むために校務分掌の組織を活用した。分掌ごとにどのような学習活動が考えられるか、月 1 回の校務分掌会議でアイデアを出し合った。校務分掌会議を中心に検討を進めたことで、各学部の立場から意見交換をし、教員一人一人がキャリア教育について考える機会となった。また、生徒指導、保健指導、給食指導等の指導部門のつながりができ、「なぜ、なんのために」が明確になるなど 1 本の柱ができた。

校務分掌会議等で話し合った取組を「キャリアの視点を取り入れた学習活動の工夫」（資料 1）としてまとめ、小学部から高等部までの各学齢期に応じた学習活動を「各学部と連携・継続した支援」（資料 2）として整理することができた。

次年度以降の課題として、授業づくりに焦点を当て、小学部、中学部、高等部のつながりを意識しながら、各学部段階で整理した学習内容を実践していくこと。実践する際には、平成 29 年度に作成した「各学部と連携・継続した支援」を活用するとともに、児童性の子に応じたねらいや手立てを明確に

キャリアの視点に立った学習内容の広がり

校務分掌名	B	キャリア教育
-------	---	--------

（ポイント）

- ・各部毎に、清掃検定を実施する。
- ・高等部「情報」で、パソコン検定に関する取り組みを計画していく。

（具体的な内容として）

- すべての教職員（小学部～高等部）に、キャリア教育についての理解を高める。
- ・4月に、キャリア教育全体学習計画のプリントを配布し、キャリアで育てたいことやキャリア教育で育てたい具体的なねらいを伝える。
- ・すべての学習活動に、キャリアの視点をもって対応することができる。
- 学校生活全体を通して、キャリア教育を推進していく。
- 研究部を中心に、各分掌とキャリア教育を連携させて実践していく。
- パソコン検定の実施
- ◎校内清掃検定の実施
 - 小学部＝お掃除キング、お掃除クイーン
 - 中学部、高等部＝校内清掃検定 1級～10級
- ※清掃検定の手順と、毎日の清掃活動を分けて考えることも大切。
- 給食のテーブル拭き 清掃検定に準じると、実が失われかねない。
- 食べこぼしの食料を、床の上に落としてしまうように。
- 一日常生活に生かせる内容を検定の手順に加える。（日常に生かす内容+検定の内容）
- 例）小学部、食べこぼしをティッシュで取ってから、検定の手順に沿ってテーブルを拭く。
- 算数で計算を学習するけど、買い物に行ったときに筆算をすることはあまりしないのでは、電卓を活用することもあるのでは・・・という意味。
- ※トイレ掃除の手順表や、階段掃除のガイドテープなどを貼る。
- ・トイレ清掃の質を高める
- ・手帳の作成、清掃グッズのセット、清掃中看板、作業着、
- ・散髪清掃の工夫
 - 自在ほうき ちりとり
 - 場所によっては家庭用掃除機を用いての清掃を取り入れることも。

他の分掌との連携

学習指導部【B】【D】の分掌と連携し、学校生活全体を通して、学習活動にキャリアの視点を位置づけていく。

資料 1 キャリア教育の視点に立った学習内容の広がり

して取り組んでいくこと。さらに、授業を振り返り改善していくためのサイクルや児童生徒それぞれの評価方法を検討し、キャリア発達を引き出すための授業が展開できるようにしていくことが挙げられた。

このように、各校務分掌で検討した内容を教員間で共通理解し、学校全体で実施した。役割をもって活動する取組を通して、自分から進んで活動する姿が見られたり、目的をもって取り組む姿が見られたりした。

各学部と連携・継続した支援(学習活動)	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">【学習指導部】 (B分掌)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災・安全 ○キャリア教育 ○進路指導 ○生徒指導 ○給食指導 ○保健指導 ○児童生徒会 ○部活動 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【各教科・領域】 (D分掌)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語/算数・数学 ○音楽 ○図工・美術 ○体育・保健体育 ○日常生活の指導 ○生活単元学習 ○作業学習 ○道徳 ○自立活動 ○総合的な学習の時間 ○職業/家庭 ○情報 ○外国語(英語) ○社会 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">各学部と連携・継続した支援(学習活動)</p> <p>校務分掌名 B キャリア教育</p> <p>(キャリアの視点に立ったテーマとねがい)</p> <p>○各学部段階に沿った清掃指導 ・校内清掃検定に沿った手順の周知、日常生活に転用することができる。 ・定期的な清掃活動を通して、清掃活動への価値や意義を見出して前向きに取り組む力を育むことができる。</p> <p>(小・中・高の連携・継続した支援)</p> <p style="text-align: center;">小学部段階での支援(学習活動)</p> <p>・特別活動『おそうじキング』を実施し、自立活動や日常生活の指導(給食)の中で、校内清掃検定に沿った手順でテーブルふきに取り組むようにする。 ・清掃活動やおそうじキングでの表彰を通し、他者からほめられたり認められたりすることで清掃活動に対して意欲の向上を図る。 ・校内清掃検定を実施するようにする。</p> <p style="text-align: center;">中学部段階での支援(学習活動)</p> <p>・1学期、総合的な学習の時間『いすみクリーン作戦』を通して、学校から国吉駅周辺のゴミ拾いを行い、地域の清掃活動に取り組むようにする。 ・2、3学期、総合的な学習の時間『おそうじクエスト』を通して、朝と給食の時間(床清掃、テーブルふき)に校内清掃検定に沿った手順で定期的な清掃活動に取り組むようにする。 ・校内清掃検定を実施するようにする。 ・場所によって清掃の仕方を変える場面を設ける。</p> <p style="text-align: center;">高等部段階での支援(学習活動)</p> <p>・毎日の清掃活動を通して、清掃活動への価値や意義を見出して前向きに取り組むことができる。 ・校内清掃検定を実施するようにする。 ・校内清掃検定の合格に向け、清掃技術(テーブル拭き、床清掃、窓清掃)の向上を図る。 ・放課後活動の一環として、定期的に近隣施設に向き、清掃活動に取り組む。 ・昼休みの各分指場所の清掃活動や食堂のテーブルふきなど清掃活動に積極的に取り組むことができるようにする。(日生)</p> <p>○キャリアの視点で、なぜ大切なのか</p> <p>・清掃検定は、基本的な清掃技術を身に付けるうえで必要な学習と思われる。小学部段階から段階に合わせた校内清掃検定を実施することで、掃除をすることの大切さや、清掃のルールなどを身に付けられるようにする。 ・清掃検定に沿った基礎的な清掃の手順や態度を知り、日常的に取り組むことで、効率の良い清掃を行うことができるようにする。 ・食べこぼしをティッシュで取る、大きなゴミはあらかじめ拾っておくなど、清掃検定への活動を通して、日常生活への転用に結び付けることができるようにする。 ・身のまわりがきれいになる気持ちよさや人から感謝されるうれしさ、充実感を味わうことで、意欲の向上に結び付けることができるようにする。</p> </div>

資料 2 各学部と連携・継続した支援(学習活動)

観点 2 : 教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価

2. 教育課程研究協議会の開催(「君津」)

「君津」では、教育課程研究協議会を平成30年1月と3月に実施した。教育課程研究協議会委員を校外から6名依頼し、「君津」の研究について指導・助言を仰いだ。平成30年3月の教育課程研究協議会において、平成29年度の研究成果と課題、平成30年度の方向性について、評価を行い、平成30年度は学部のつながりを意識した取組へとつながった。

観点 3:

個のニーズにあわせた指導法、学習環境・支援の工夫

3-1. 評価の観点設定による目標の明確化・手立ての工夫（「君津」）

「君津」では、評価の観点を明確にする取組をした。中学部では、実態把握表（資料 3-1）と評価規準表（資料 3-2）を作成した。評価の観点を「育成を目指す資質・能力の3観点」とし、発達段階ごとに目標や内容を整理した。実態把握表や評価規準表で教師間の共通理解が図られ、手立ての工夫について話し合ったり、授業改善につながったりした。

歌唱	歌唱	歌唱	歌唱	歌唱	歌唱	歌唱	歌唱	歌唱	歌唱			
（歌いたくなくても歌えない（発語がない））	歌詞を直前に伝えれば歌える（言えない）	覚えたところを歌う（音程△）	覚えたところを歌う（音程○）	好きな歌のときに口ずさむ（音程○）	自分なりに全て歌える（音程△）	伴奏に合わせて全て歌える（音程△）	伴奏に合わせて全て歌える（音程○）	伴奏に合わせて全て歌える（音程○）	伴奏に合わせて全て歌える（音程○）			
観点	関、表・思	関、表・思	関、知、表・思	関、表・思、知・技	関、表・思	関、表・思、知・技	関、表・思、知・技	関、表・思、知・技	関、表・思、知・技			
歌唱	歌いたくない（恥ずかしい）（自信がない）（好きな歌じゃない）	友だちや教師と一緒に一部を歌う	友だちや教師と一緒にだいたい歌う	友だちや教師と一緒に全て歌う（ささやき声）	友だちや教師と一緒に全て歌う	友だちや教師と一緒に全て歌う（聞こえる声）	友だちや教師と一緒に全て歌う（大きな声）	友だちや教師と一緒に全て歌う	友だちや教師と一緒に全て歌う			
観点	関	関	関	関	関	関	関	関	関			
器楽	叩きたくない（興味がない）（嫌い）（指示される意味が分からない）	言葉をかければ楽器を手に取る（鳴らさない）	言葉をかければ手に取って鳴らす	楽器を手に取って鳴らし続ける	教師の合図に合わせて鳴らす・止める	伴奏を聞いて鳴らす・止める	教師の支援で一部リズム打ちをすることができる	教師の支援でだいたいリズム打ちをすることができる	教師の支援で全部リズム打ちをすることができる	一人で一部リズム打ちをすることができる	一人でだいたいリズム打ちをすることができる	一人で全部リズム打ちをすることができる
観点	関	関	関、表	関、表	関、表・思	関、表・思	関、表・思、知・技	関、表・思、知・技	関、表・思、知・技	関、表・思、知・技	関、表・思、知・技	関、表・思、知・技
身体表現	人の様子を見ている	教師が働きかけると一部真似できる			曲を聞きつつ一部合わせる			曲を聞きつつ全部合わせる				
観点	関	関、表			関、表・思、知			関、表・思、知				

資料 3-1 実態把握表

参考 中学部 音楽科 Aグループ 評価規準と基準（2学期）
題材名「合奏をしよう」

		学びに向かう力・人間性等（音楽への関心・意欲・態度）	
		知識及び技能 （鑑賞の能力、音楽表現の技能）	思考力・判断力・表現力等 （音楽表現の創意工夫）
評価 観点	関	楽器の音色や曲の雰囲気を知る。	（合奏） ・伴奏に合わせて、楽器で表現する。
	表	本時：鑑賞曲を聴いて、その雰囲気を感じたり、楽器から感じたりする。	本時：伴奏を聴いて、自分のパートを演奏する。
	思	曲の特色や変化について自分から発言する。	・全体練習（制歌の多い集団）で、周りに合わせて演奏する。
基準 （評価 観点）	関	曲の特色について、教師が提示したものの中から適切なものを鑑賞	・パート練習（制歌の少ない小集団）で、周りに合わせて演奏する。
	表	曲を聴いて、表現を述べたり、声を出したりする。	・伴奏を聴いて、自分なりに演奏する。

資料 3-2 評価規準表

3-2. 個に合わせた振り返り（「夷隅」）

「夷隅」では、児童生徒自身がわかりやすい方法（実物、動画、写真、イラスト、ことば）を用いて振り返り（評価）を行った。例えば、中学部の日常生活の指導「清掃検定」や小学部の生活単元学習では、がんばったことについて文で記述するだけでなく、本人が実際に頑張っている様子の写真を賞状やメダルに掲載し、児童生徒が自分の頑張りがわかるような工夫をした。

ことばで表現することが難しい児童生徒に対しては教員が言語化して返した。また、表出が難しい児童生徒にはドロップスのイラストや、DropTalk・vocaco といったアプリを利用した（資料4）。



資料4 イラストによる振り返り

観点4：

障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定

記載なし。

観点5：

多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施

5. 評価規準やアセスメントシートを用いた複数の教員による評価（「君津」）

「君津」では各教科や各教科等を合わせた指導において、育成を目指す資質・能力の3つの柱を評価の観点として評価表の作成に取り組んだ。チェック項目を作成することで、指導内容や手立てが具体的になり、児童生徒の変容がわかるようになった。